

平成28年度 沖縄県学力到達度調査の結果

沖縄県教育庁義務教育課

1 趣 旨

沖縄県学力到達度調査は、本県児童生徒一人一人の学力の定着状況を把握するとともに、各学校における授業改善の充実に資することを目的とする。

2 実施期日・対象学年・教科

(1) 小学校調査：平成29年2月22日(水)

(2) 中学校調査：平成29年2月23日(木)、2月24日

対象学年	教科	対象学年	教科
第3学年	国語、算数	第5学年	国語、算数、理科
第4学年	算数	第6学年	算数

対象学年	教科
第1学年	数学
第2学年	国語、社会、数学、理科、英語

3 教科の調査結果(平成29年3月9日現在)

(1) 小学校

対象学年	教科	児童数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	正答率 30%未満
第3学年	国語	15,594	59.4	34.6	5.9	9.1
	算数	15,638	76.2	22.5	1.3	1.4
第4学年	算数	15,417	62.8	33.6	3.6	7.4
第5学年	国語	14,827	60.9	33.8	5.3	8.5
	算数	14,865	63.4	31.8	4.8	7.3
	理科	14,840	58.9	39.9	1.1	6.5
第6学年	算数	15,109	58.9	35.7	5.5	9.6

(2) 中学校

対象学年	教科	生徒数	平均正答率	平均誤答率	平均無解答率	正答率 30%未満
第1学年	数学	14,392	40.8	46.3	12.9	36.4
第2学年	国語	14,479	61.2	35.4	3.3	5.8
	社会	14,456	47.7	48.1	4.2	16.7
	数学	14,461	53.9	38.4	7.7	17.4
	理科	14,473	45.1	47.7	7.2	25.5
	英語	14,489	51.4	44.8	3.8	20.9

4 結果の概要(正答率30%未満児童・生徒の視点から)

(1) 小学校

算数の正答率30%未満児童の割合については、学年が上がるとその割合が大きくなる傾向がある。国語については、算数と比較すると早い段階(小3)から正答率30%未満児童の割合が大きい。

(2) 中学校

正答率30%未満の生徒の割合が、ほとんどの教科で10%を越え、中1数学(36.4%)で最も大きく、中2国語(5.8%)で最も低い。

5 各学年・各教科ごとの状況

(1) 小学校

① 国語(小3、小5)

小3、小5の共通した課題には、文の意味やつながりを考えながら、接続語を使って書くことや目的に応じて中心となる語句や文を捉え、段落相互の関係や事実と意見の関係を考えて読むことがある。接続語を使って二文に分ける活動や事実と意見を分類・整理する活動を取り入れるなど指導の工夫が必要である。

② 算数（小3～6）

小3については、日常生活の中で時刻を読み取ること、小4については、分度器を用いて角度を測定することに課題がある。小3の時刻の学習では日常生活の中での行動や経験と対応させたり、小4の角の学習では測定に生かせるように直角や 180° を基に角の大きさの感覚を身に付けさせたりするなど指導の工夫が必要である。

小5については、基準量と割合から比較量を求めること、小6については、2つの帯グラフに関わる比較量の大小を判断したりすることに課題がある。両学年ともに、基準量・比較量・割合を図を用いて整理するなど、数量の関係を正しく捉えさせる指導の工夫が必要である。

③ 理科（小5）

天気の変化を予想する設問において、気象情報を用いてある地点の天気を予想することに課題がある。雲の観察や、テレビや新聞、インターネットから得られる気象情報を活用させ天気を予想させる活動を取り入れるなど指導の工夫が必要である。

(2) 中学校

① 国語

聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して、話すことができるかどうかを見る設問において、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるような原稿を条件に沿って読み取ることには課題がある。スピーチなどの活動を行う際には、聞き手にとって分かりやすい言葉を選択して話すことや、聞き手の反応を予想して分かりやすい言葉に言い換えたり、説明を加えたりするなど指導の工夫が必要である。

② 社会

複数の資料から社会的事象を読み取り、それらを比較・関連させて考察し、条件に従って表現することに課題がある。特に地理では、様々な事象を位置や空間的な関わりで捉え、環境条件や人々の営みと関連させて考察したり、地理的な「見方・考え方」を働かせ、課題を追求し解決を図ったりするなど指導の工夫が必要である。

③ 数学（中1、中2）

中1については、事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことに課題がある。関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用して、その関係を文字式に表すことができるように指導する必要がある。

中2については、一次関数について表、式、グラフを相互に関連づけて理解することに課題がある。一次関数の表、式、グラフの相互関係から一次関数の特徴を気づかせたり、表、式、グラフを相互に関連付けて理解したことを説明したりするなど、指導の工夫が必要である。

④ 理科

資料から読み取ったことを根拠として、問題に答えたり、文章で説明したりすることに課題がある。根拠をもとに予想や仮説、考察などの説明をしたり、自分の言葉で授業をまとめたりするなど指導の工夫が必要である。

⑤ 英語

自然な口調で話す英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることには課題がある。実際の場面を想定した言語活動を通して、生徒自らが自然な口調で英語を話すような場面の設定をするなど指導の工夫が必要である。